

# 研究通信

16.5.4

1966.9刊  
村落社会研究会  
事務局

東京都目黒区駒場町  
東京教育大学農学部  
農村社会学研究室内

## 第十四回村研大会開催せまる

### 一 村研拡大委員会報告一

村研四十一年度第四回拡大委員会は去る八月九日、慶應大学第一研究室にて開催、出席者は小池基之、中野卓、島崎稔、柿崎京一、米地実、事務局より齋野四郎、以上の六名でした。

この日の拡大委では年報「村落社会研究第二集」の進行状況と第十四回村研大会の予定など具体的なことが報告されました。年報第二集は編集委員会の努力と寄稿者諸氏の協力により九月下旬に刊行できる見込みで大会前に会員諸氏の御希望によりお申込みがあればお手許に届く予定です。お申込は直接、

○ 研究動向

II

中野

卓

・ 昭和戦前期の農家の経営と部落について

黒崎八洲次良

・ 北海道虻田郡留寿都村大西家文書を中心にして  
・ 企業進出に伴う住民の対応と村落の変化

柿崎京一

・ 明治期一村落の協議録

原宏一

・ 「就業構造の近代化」と農家労働力市場の変貌  
・ 遠賀川改修工事関係区有文書

皆川勇一

一

・ 「むら」の解体(共通課題)の論点をめぐつて  
・ 見込みで大会前に会員諸氏の御希望によりお申込

みがあればお手許に届く予定です。お申込は直接、

稿書房(東京都文京区本郷三丁目六一〇・振替東京八七八二)

へ願います。定価千四百円ですが、会員価格は送料共千二百円です。

なお、年報第二集の執筆者ならびにテーマなど内容は次のとおりです。

・ 村落社会研究 第二集

・ 族団と「家」 神谷 力

・ 明治民法施行前における親族の組織を中心として

史学・経済史学

経済学

社会学

法社会学

民俗学

島田常盤

川越淳二

宮木常一

畠山隆

村研大会については前号でお知らせしたように、共通課題、日程などはすでに決定しており、この拡大委では大会の発表者、発表テーマ、開催場所など大会の運営全般に関する報告があり、討議されました。

大会の研究発表者、発表テーマについてはすでに七月一杯で募集を締め切りました。一方応募の少いことも見越して勧奨にも努めた結果、左のとおりの決定をみました。論旨、内容の詳細についてはプログラムおよびレジュメを御覧願います。

### 一 自由課題発表者

1. 米地 実（慶應大） 明治末期における「神

社整理」について—長野県諏訪郡湖南のばかり

い—

2. 吉沢四郎（林業試験場）山村社会の展開と山

林労働組合—奈良県吉野林業地の事例—

3. 柿崎京一（図書館短大）明治二〇年代における海苔株の解放運動と村落構造

4. 宮崎俊行（慶應大） 大型請負耕作体と

村落—宮城県S村Y協業組合を中心として—

5. 黒崎八洲次良（北海道教育大）戦時体制期の

農家の経営と部落について—北海道虻田郡留寿都村大西家文書を中心に（3）—

6. 布施鉄治（北大） 都市近郊農村の資本主義的再編過程

### 二 共通課題発表者

1. 菅野 正（福島大） 村落の再編過程と權力構造—秋田県平鹿町明沢部落の場合—

2. 安孫子麟（小樽商大） 農地改革後における村落支配構造の変質—宮城県大地主地帯の事例—

3. 川越淳二（愛知大） 志摩漁村の權力構造

#### 一階層構造と村組織

大会の発表者・テーマは以上のとおりで、すでに諒承しております。前号で発表したように四十一年度の共通課題は「村落における權力構造の変化—村の解体と再編成—」であり、身延大会以来、会員

諸氏の御意見に基いて拡大委で討議されました。大会での発表者諸氏も自由・共通をとわず大会テーマを御諒承の上、討議素材を提供して頂けるものと確信し、拡大委員一同大いに期待しております。そこで本大会での論議を一層深めるために共通課題の報告時間を前回より一〇分延長して五〇分としましたが自由課題では発表者多数のため一〇分繰下げる三〇分としました。さらに今回は討議をち密にするため発表者諸氏に全部レジュメの提出をお願いし、その枚数を多くすることとなりました。すでにほぼ出揃いプログラムとともに一部は印刷に廻っているので大会前に会員諸氏のお手許へ届く見込みです。予め御一読頂きたい。なお、大会の運営・司会は中野卓、島崎穂の両氏にお願いすることとなりました。

#### 第十四大会の御案内

既報のとおり来る十月十九日㈬、二十日㈭の両日大会を開催することとなりましたが、開催場所・経費など次のとくです。

##### 一 開催場所・会場

神奈川県箱根町湯本茶屋一八五

国家公務員共済組合保養所

電話箱根(5)一五一二四・五二六二

大会会場への道順はプログラムに載せた地図を御参照頂きたいのですが、説明しますと、東海道線小田原駅から箱根登山電車に乗換えて約十五分(五〇円)で箱根湯本駅下車。歩いて約一〇分、ハイヤーなら湯本駅から約三分(普通一〇〇円)、小田原駅から五五〇円くらいです。

##### 小田急線の時刻表を掲げておきます。

東海道線	
東京発	小田原着
8.35	9.19
* 9.05	- 9.47
* 7.30	- 8.43
* 8.30	- 9.43
× 7.36	- 9.31
+ 7.54	- 9.46
小田急	
新宿発	箱根湯本着
8.00	9.20
8.30	- 9.50
(ロマンスカー)	*
+	伊東行
浜松行	

○こだま  
○東海二号  
○伊東行  
○浜松行

##### 二 経費

###### 1 大会参加費

三〇〇円

###### 2 宿泊料(一泊四食・但し十九日昼食一

二千日雇食込 サービス料(入湯税込)

一、三四〇円

###### 3 懇親会費

計 二、三六〇円

###### 4 本年度会費

五〇〇円

一 なお十八日夜食・十九日朝食まで、又は二十日夜食・二十一

日朝食を希望の方は別にそれぞれ一〇〇円余分に頂きます。  
経費は会場でも受付けますが、なるべく同封の振替用紙利用の上、前もつてお払い込み下さるようお願いいたします。なお大会参加の有無、宿泊予定、食事などは同封のはがきで十月十二日必着御返信下さい。

有賀喜左衛門著作集 未来社版

！広告！

事務局からのお知らせ

第一巻 日本家族制度と小作制度（上）。既刊。

三九四頁（第三章第二節まで）一、八〇〇円

第二巻 日本家族制度と小作制度（下）。九月下旬刊行予定。（第三章第三節以下、事項索引、地名索引まで完結）定価未定。

第三巻 大家族制度と名子制度 南部二戸郡石

神村における一（全）。十二月刊行予定。

現在組版中。アチックから出た有名なモノグラフ。それに「信濃」に発表した論文「大家族制度崩壊以後」の大増補改訂版を付す。

写真多数追加。

第四巻 来春刊行予定。以下、第十巻および別巻

有賀喜左衛門研究まで続刊を予定。

○ 各巻平均一、五〇〇円、二〇〇円以下とする計画です。

○ 発行所 東京都文京区小石川三ノ七 未来社  
振替 東京八七三八五番

中野卓氏より左の件御依頼がありました。

上掲広告欄にありますように、未来社から『有賀喜左衛門著作集』全十巻が、ほぼ三ヶ月おきに三ヶ年計画で刊行されはじめました。第一巻既刊。第二巻近刊。村研会員より左記編者あて御送金下さらば著者買上分として割引入手できます。但し、各巻の広告で定価を御覧になつてから、定価の八〇%に送料九〇円を加え（第一巻は一、八〇〇円の八割で一、四四〇円、これに九〇円加えて一、五三〇円）、現金書留で御送金頂きたい、とのことです。

宛先 東京都文京区大塚三丁目二九の一

× × ×  
東京教育大学文学部社会学研究室 氣付  
中野 卓

十月の大会を間近かに控えて事務局もこのところ大忙がしです。何と云つても先立つものが常に不足な事務局のこととて、会員諸氏におかれでは、同封の振替で会費、とくに未納分をお送り頂ければ、会運営に何かと便宜ですので、よろしくお願ひ致します。